

2 北九州スタジアム（ミクニワールドスタジアム北九州）の取り組み



江口 隆志
EGUCHI Takashi

北九州市 / 市民文化スポーツ局
スポーツ振興課 / 施設管理係長



「市民に夢と感動を！子どもに元気と目標を！まちに誇りとにぎわいを！」をスローガンに、ミクニワールドスタジアム北九州が整備された。スポーツを「みる」機会を創出する工夫と、施設周辺のにぎわい創出を目指した官民一体の取り組みを紹介する。

スタジアムの整備

平成25年6月、北九州市はスタジアム整備の着手を決定しました。スタジアムの整備は、プロも利用する高規格で大規模なスポーツ施設の整備という事業の特性を考慮し、民間のノウハウを活用するPFI事業により実施しています。この手法の採用により、施設の設計・建設から維持管理と運営までを一括して実施することで、より質の高い市民サービスの提供や維持管理の効率化が可能となります。また、小倉駅新幹線口地区のエリアマネジメントに関する業務も含んでおり、民間事業者へエリアマネジメントへの積極的な協力、連携を行うことを義務付けています（写真2）。

スタジアムのコンセプト

「市民に夢と感動を！子どもに元気と目標を！まち

に誇りとにぎわいを！」というスローガンを掲げ、以下の4つのコンセプトに基づいて実施しています。

- ① みんながつどい、にぎわいを生む“海ちか・街なか”スタジアム
- ② 夢と感動を生みだす“ダイナミック”スタジアム
- ③ 環境未来都市にふさわしい“エコ”スタジアム
- ④ ものづくりの街北九州を発信する“街かどショールーム”

なかでもダイナミックスタジアムとして、最前列の観客席とタッチラインやゴールラインとの距離が8mと非常に近く、最前列をピッチにできるだけ近いところまで低くするなど、国内のスタジアムとしては初の「ゼロタッチ」を実現しています。このためアスリートの声や息づかいなど、テレビでは味わえない躍動感と臨場感を楽しめます（写真3）。



写真1 スタジアム外観



写真2 小倉駅新幹線口地区



写真3 ゼロタッチスタジアム。奥が足立山



写真4 傾斜角が大きな観客席

またファミリー席や車椅子席の設置に加え、ガラス張りのラウンジを備えたテラス席をメインスタンド3階に備える等、多彩なシートバリエーションを用意したハイレベルで快適な観戦環境も魅力です。

さらに観客席に屋根を設けることでスタジアムに囲い込み感を生み出し、スタジアムの熱気を閉じ込めつつ、雨・風・日差しを遮断し、個々の観戦環境を向上させています。特に、傾斜角が大きな観客席とすることで、死角をなくし、かつフィールドとの一体感を生み出しています（写真4）。

加えて、海に近いため関門海峡を臨むことができ、客席からは航行する船や対岸の足立山を見ることが出来ます。海に面した立地を活かし、船のマストをイメージする吊構造の屋根デザインやスタジアム全体の配色は、近隣施設との調和を考え、景観にも配慮したスタジアムとなっています。

北九州市のスポーツ振興

「スポーツは、世界の人々に大きな感動や楽しみ、活力をもたらすとともに、言葉や生活習慣の違いを超え、私たち人間が共同して発展させてきた人類共通の『文化』」です。そのため、北九州市ではスポーツを実際に「する・行う」だけではなく、トップレベルの競技大会やプロスポーツの観戦などスポーツを「みる」ことや、指導者やボランティアなどの活動を通してスポーツを「創る・支える」ことなどに力を入れています。

そういったスポーツとの多様な関わり方を楽しむことが、私たち一人ひとりの生涯にわたる生活の中にバランス良く形成・定着していくことにより、スポーツの文化的価値を存分に享受して生活を送ることが出来ます。こう

いった観点からスポーツを「する・行う人」だけでなく、「みる人」「創る・支える人」に着目し、ソフト・ハードの両面から市民の誰もがスポーツ活動に参画し協働することのできる機会づくりを促進し、豊かなスポーツライフの形成・定着に努めています。

「みる」スポーツの機会創出

競技レベルの高いプロスポーツ等の試合を観戦することは、その臨場感やダイナミズムを直接肌で感じることができ、観戦者に夢や感動を与えるとともに、スポーツへの関心や意欲を高めます。また、プロスポーツや国際的・全国的スポーツ大会の誘致・開催は、まちの知名度やイメージアップのほか、集客力向上等に伴う経済効果を生み、シビックプライドの醸成やまちのにぎわいづくりにつながります。これらの実現に向け、各競技団体や関係団体との連携により、プロスポーツや国際的・全国的スポーツ大会等の誘致・開催に積極的に取り組むとともに、スポーツ観戦に観光を加えたスポーツツーリズムの推進にも配慮し、インバウンド拡大及び国内観光振興にも貢献しています。

小倉駅新幹線口地区整備構想

小倉駅新幹線口地区については、官民が一体となって活性化に向けた多様な事業に取り組んできました。国道199号などの都市基盤、西日本総合展示場などのコンベンション施設の整備、小倉記念病院の移転、あさの汐風公園、漫画ミュージアムのオープンなどにより、新たな人の流れやにぎわいが生まれており、さらに北九州スタジアムがオープンするなど、若者をはじめ幅広い世代の集客のきっかけづくりになるものと期待されています。



写真5 浅野町緑地



写真6 小倉駅



写真7 西日本展示場



写真8 商店街

また、本地区に300万人の集客を目指し、スタジアムやその周辺エリアにおいて、関係機関や市民団体等と連携し、サッカーなどの試合が開催されていない時でも、多くの市民や近隣地域の方々が楽しめる集客イベントを開催することとしています。

具体的な取り組みとして、以下の4つを行いました。

① にぎわい施設の整備と回遊性の向上

北九州スタジアムをはじめ、スケートボードやストリートダンス等ができる広場として浅野町緑地を、親水性を高め海辺の魅力を感じながら散策できる空間として砂津緑地を整備しました。これらでは、スタジアムや周辺施設と連携した各種イベントやケータリングの場として、スタジアムへ来た多くの来場者が、安全で楽しく快適に滞在するための空間としての利用が可能となりました(写真5)。

② 滞在時間の延長

歩いてみたくなる歩行空間や周辺施設を結ぶ動線上を楽しく回遊できる公共空間を創出し、滞在時間の延

長を図るため、既設の照明灯等を活用し、フラッグ広告を掲げたり、既設の歩行者系サインを有効活用し、目的地までの距離や消費カロリーなどを表示しました。

③ 渋滞対策

スタジアムは新幹線停車駅であるJR小倉駅から徒歩約7分と全国1番の立地条件であり、かつエコスタジアムとして環境負荷の低減につながるよう、公共交通機関を利用した来場を基本としています。しかし高齢者や子ども連れのファミリー層など、車の利用が必要な方の来場も見込まれることから、周辺の交通環境への影響を最小限に抑えるため、近隣駐車場の配置状況及びイベントや試合時の集散状況を考慮し、渋滞対策として、右折レーンの設置や延伸などを行いました。

④ 都心部の回遊性を高める仕組み

スタジアムをはじめ新幹線口エリアを訪れた人が小倉城口エリアの商店街などで飲食や買い物をしたり、多数のイベントに参加できるように、都心部の回遊性を高



写真9 スタジアム（食の魅力）



写真10 夜のスタジアム

める仕組みを構築しました。また都心部全体のにぎわいの創出を図るため、例えばおもてなしプロジェクトとして、スタジアムへの誘導や導線上の各所でイベントを開催しました。小倉駅では、ウェルカムボード・フォトスポットの設置やカフェやストリートライブの開催。西日本展示場では、地元のパンやアクセサリブースの設置。浅野町緑地では、ご当地グルメを開催。スタジアム内では、地元水産物のPRブースを設置。

また、スタンプラリーポイントを各所で付与し、地元商店街で利用できるクーポン券を配布しました(写真6～9)。

夢と感動の提供

既存のスポーツ施設は、教育的側面である「する」場の体育施設として整備されてきたため、観客席等の「みる」ための設備が十分ではありません。観客の快適性・利便性やプロスポーツチームの試合や活動よりも、一般市民の利用など公共性の確保に重きがおかれる傾向があります。

しかしながら『スタジアム・アリーナ改革指針』(平成28年11月スポーツ庁)では、「スタジアムは、一般的な地域住民の利用に供されるスポーツ施設と同じ手法・ルールで整備・管理される必要はなく、集客施設として、人々の地域内交流に加えて、スポーツツーリズム等による地域間交流を促すことにより、まちのにぎわいを創出する。身近なスポーツチームの存在やチームと行政との連携により、地域住民のスポーツ機会が増加し、青少年の健全育成や多世代にわたる健康増進が促進される。スポーツチームが収益を還元して社会貢献活動を積極的に行ったり、スポーツ選手が地域に対する高い訴求力を活かしてパブリックメッセージを発信したりす

ることを通じ、社会問題の啓発、被災地復興などの様々な社会課題を効果的に解決に導くことができる。スタジアムに頻繁に足を運び、スポーツチームを応援し、その勝ち負けに一喜一憂することは、地域住民のアイデンティティの形成、地元への愛着の醸成につながる。スタジアムの周辺の環境価値を高め、地価下落の抑制や新規開発の誘発等、地域の不動産価値を維持向上させる」と示されています。

ミクニワールドスタジアム北九州についても、都心部に人が集い、にぎわいあふれる北九州市の創出を目指し、Jリーグやラグビートップリーグなどの試合、学生のサッカー・ラグビー大会、グラウンドゴルフ大会、子どもたちへの芝生開放などに加え、まちのにぎわいを生み出すイベントを開催することで、市民に夢と感動を提供することを目標にしています。このような高規格で大規模な施設は、本市のシンボルとして、市民の一体感の醸成や都市ブランド向上等、様々な効果を生み出す地域活性化の核となるインフラと考えています。

よって、行政は、「みる」スポーツの価値や魅力を高めることが最終的には地域に利益をもたらすことを、スポーツチームは、公共施設を利用していることで市民の多様な意見があることを認識し、自らの活動が社会課題の解決に向けて公共的な役割をいかに果たしていくか、公共的な効果をいかに地域にもたらせるかについて考えるべきです。そして、市民に愛されるスタジアムとなるためには、以上のことを行政やスポーツチームをはじめ、市民がきちんと理解することが大切なことであり、スポーツやイベントが行われている時だけでなく、普段から施設に人が集うような公共の広場になる必要があるのではないかと思います。